

ミズナラ

アイノミドリシジミ
の幼虫は新芽を食べる



冬芽は遅霜に対応して一度に開かず、一部を保存する

四季の観察ポイント

春



雌花

雄花

夏

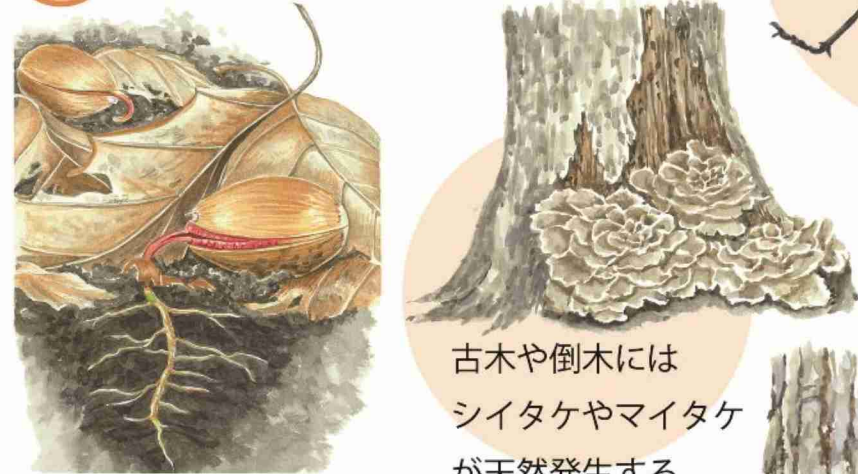
少しずつ大きくなる
堅果（ドングリ）



樹液を吸いに来る
クワガタムシ

秋

堅果は落葉の下で
根を出し冬を越す



古木や倒木には
シイタケやマイタケ
が天然発生する

冬

冬芽は真上から見ると
5角形に見える



樹皮は灰褐色で
縦に不規則な割れ目



ブナ科
コナラ属
樹高 30m



カケスやリスによる
種子散布

ミズナラは日本の冷温帯落葉広葉樹林を代表する木で、北海道から本州・四国・九州に広く分布します。北海道では北側以外の斜面を好むとされ、樹高30m、胸高直径2mにも成長し、純林に近い林も見られます。

ミズナラのドングリ（堅果）は、大きく栄養豊富なため、ヒグマやエゾシカ、タヌキ、キツネ、ネズミ、リスなど様々な動物の餌となり散布されます。動物たちに散布してもらったミズナラは、その年の内に根を出し、落ち葉と雪の下で越冬します。

リン子・絵日記



北海道のどんぐりと
いえばミズナラ。
栄養満点のどんぐりは
たくさん動物たちの
秋のごちそうだ。

古いミズナラの幹には
マイタケなどのきのこも
出るよ。

ミズナラは名前の通り水を多く含む木だ。重く、堅く、どっしりとして木目も美しいから、高級家具材や内装材に活用されているよ。

おもしろい
木目があるね！

ミズナラ
どんぐり
どころ



虎の模様のようなから
「虎斑」と呼ばれているんだ。

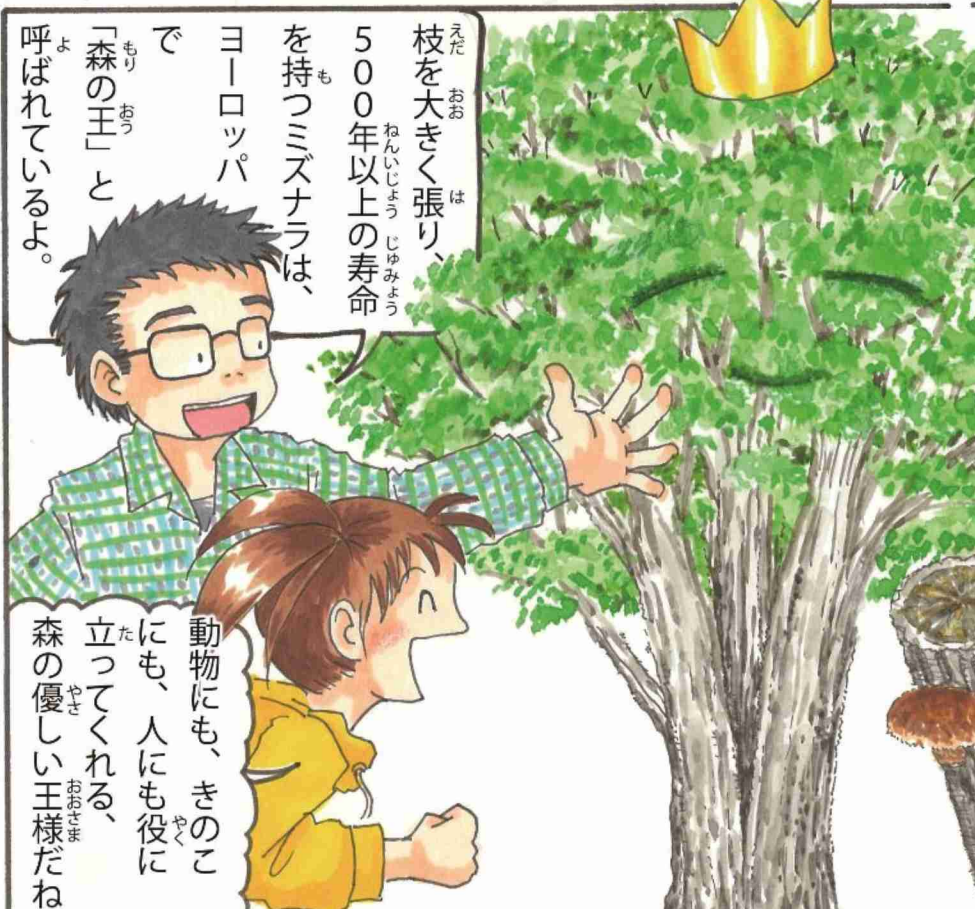
また、若いときの成長も早いから、木炭や、シイタケ栽培の原木にも利用できる。



切り株から
たくさん芽が
でてきている！

萌芽だね。
育てて切つてを
繰り返せるんだ。

約20年後



枝を大きく張り、
500年以上の寿命
を持つミズナラは、
ヨーロッパ
で「森の王」と
呼ばれているよ。

動物にも、きのこ
にも、人にも役に
立ってくれる。
森の優しい王様だね

ミズナラとくわがたむしが

北海道のミズナラは「ジャパニーズ・オーク」とも呼ばれ、昭和40年代までは最高級材として欧州にさかんに輸出されていました。また、ミズナラは材にタンニンやポリフェノールといったワインやウイスキーの熟成に適する成分を多く含み、お酒の漏れもほとんどないため、洋酒の酒樽として重宝されています。



若い切り株からは盛んに萌芽するので、約20年サイクルで育てれば、シイタケを栽培する時に菌を植え付ける原木（ほだ木）や薪炭材（炭を作る材）として循環利用できます。

アイヌ民族とミズナラ

ミズナラはアイヌ語で「ペロニ」（「ペロ」は「どんぐり」と呼ばれ、実を茹でてから干して保存食としていました。挽いてお餅のようにして食べていた地域もあります。三つ股になっている木は、山の神の木であるとして、特に大切にされました。